

# 来年度に向けたテーマ性のある国家予算を編成し、国民に説明しよう

山辺町立山辺中学校教諭 3学年 武田 桂輔  
 実施年月日：平成30年12月 31名

## 1 実施計画・指導のねらい

今回の授業を計画するにあたって、歳入や歳出項目の内容説明や、増減をしたときのシミュレーションを行った。理由として、単元のまとめに行う予算編成活動のためには、大きな政府と小さな政府の比較、社会保障費を増減した場合に納税者や労働者とサービスを受諾する者の負担や恩恵を比較するためである。

生徒達は将来、納税者として国家財政を支える1人の人間として生活していく。税というと「取られる」「増税してほしくない」といったマイナスな印象が多い。そのため、単元を貫く課題として『財源はどのように確保・配分されるべきか』を設定した。生徒を政府側・国民側の両方の立場に置かせることによって、納税の必要性や効率的かつ公正な財源の確保や配分、そして国民が納得する予算編成の難しさを実感させていきたい。

## 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問(○)、こどもたちの反応(●)、使用教材等(□)
1	予算の意義と日本財政の現状と課題について理解する。	○増やしたほうが良い歳入、減らしたほうが良い歳出は何か？ ●歳入・・・消費税：老若男女関わらず平等に税が取れるから。 法人税：利潤の大きい大企業からならば集めやすい。 歳出・・・地方交付税：地方のことは地方に頑張らせたほうが良い。 公共事業：景気が良好だと報道で聞いたので抑えても良い。 □「私たちの暮らしと税」
2	未来の日本財政の在り方を考察する。	○小さな政府？大きな政府？第三の政府？日本の財政の在り方は？ ●小さな政府：これ以上の国債残高の増加は危険。自分のことは自分で負担してもらおうほうが良い。 大きな政府：様々な家庭状況や生活スタイルがある現代だから、手厚く保障してもらおうほうが安心。 第三の政府：税収は増やすが公共サービスは抑える。それによって国債費の割合を増やして健全な財政を目指したほうが良い。 □「私たちの暮らしと税」
3 4	社会保障の重要性を待機児童問題から捉える。	○社会保障の項目を増減させるとどんな社会になる？ ●増加：社会的に弱い立場の人にとってはうれしいが、大きな政府になり納税者の負担が大きくなる。 減少：小さな政府になり国民の負担は軽くなるが、もしもの時のサービスや保障が受けられないことは不安だ。 ○少子化なのに待機児童が解消されない矛盾はなぜ生じるのか？ ●女性の社会進出による家庭保育の難しさ、人口過密地域では保育所増設が追い付かない、長時間労働や休憩時間の少なさから保育士になりたい人が減少、ひとり親世帯の増加＝保育施設を頼る世帯の増加 □「内閣府資料」、「保育士の労働環境」、「世帯別割合の推移」いずれもインターネットから引用
5	税金の種類と意義を理解し、公正・公平な税の確保について考察する。	○所得税と消費税、公正・公平な税はどっちだ！？ ●所得税：所得に応じた税率負担なので垂直的平等だと思う。 消費税：買い物をした人全員が同じ税率負担だから水平的平等だと思う。 □「私たちの暮らしと税」
6 7	財務省の官僚となって国民に理解される来年度の予算編成を構築しよう。	○来年度国家予算のテーマを考えよう。 ●環境対策、少子高齢化対策、オリンピック対策、国債残高対策・・・ ○チームで決めたテーマに沿った国家予算を編成してみよう。 ●自分たちのテーマで組むと歳出が多くなりすぎる。国債が増えるのは仕方ないからテーマ性を重視したプレゼンにしよう。 ●この予算編成ならばテーマ性を維持しながらも国債残高を減らしていけるから、国民役に納得してもらえらるだろう。 □「財務大臣になって国の予算をつくろう」「グループワークシート」「予算編成用タブレット」※ゲストティーチャー（財務局から2名、税務署から1名）

【指導のポイント】《1時間目》  
 国家予算を1か月の家計に置き換えた資料を活用して、日本財政の実態と課題を掴んだ上で、改善する手立てを考える。

【指導のポイント】《2時間目》  
 景気の安定装置である金融政策と財政政策の内容を理解した上で、行政がどこまで国民生活に手をのばすのが妥当かを考えさせる。

【指導のポイント】  
 《3・4時間目》  
 社会保障の4本柱とその役割を理解して多様なサービスにつながっていることを理解した上で、増減のシミュレーションから国民生活への影響を分析させる。  
 身近な事例を題材にして社会保障の必要性を実感させる。

【指導のポイント】《5時間目》  
 国税と地方税、直接税と間接税の違いを理解した上で、水平的平等の消費税と垂直的平等の所得税の課税方法を比較し、どちらが公正・公平な税かを討議して、自分なりに答えを出させる。

【指導のポイント】  
 《6時間目》  
 予算編成のテーマを決める際は、これまでの日本の課題を再確認させて、尚且つ「効率・公正」「国民の合意」という2つのものさしを示して考えさせた。  
 《7時間目》  
 想定した予算編成をタブレットに打ち込むが思うようにならない時はゲストティーチャーらにアドバイスを求めるよう促した。  
 交流後に批評内容に応じて、より国民が納得する予算を再構築させた。

## 3 実践の成果(◎)と課題(◆)

- ◎納税者と政治家の両方の立場になって財政を考えることで、納税の必要性や公共サービスの重要性を実感する生徒が多かった。
- ◎予算編成会議を行う際に、財務局や税務署の方々をゲストティーチャーにすることで、思い込みの編成にならないよう適切なアドバイスを送ることができた。生徒の振り返りの中にも、『日本の現状に応じた財政のためには、国民全体が痛みを分かち合っていく必要がある』という記述があり、社会の一員としての自覚や未来の納税者としての責任を感じさせるものとなった。
- ◎予算の増減はタブレットPCに打ち込むと、即座に歳出・歳入のグラフや国債残高の増減に反映されるソフトが組み込まれていた。そのため、生徒にとっては様々なパターンの予算構築を可能にした。
- ◆発展的な課題にするためにも、増加させた歳出の項目について具体的な使い道や政策につなげることができればより現実的な予算編成になった。6時間目の準備時間をもう1時間増やすことで、より中身の濃い予算編成会議になったと考えられる。